

高等学校

教科【水産】

単元【漁業：漁業と情報について】

主体的・対話的で
深い学びのポイント

生徒が主体的に漁業情報を活用するとともに、好漁場と判断できる方法について他者と対話することで、漁業情報の種類や漁業と海洋環境についての学びが深まる。

ICT活用のポイント

漁業者が実際に活用している衛星画像を使用することで、生徒が科学的根拠に基づいて好漁場を推測することができる。

使用する
ICT機器

PC、タブレット等

使用するアプリ・
クラウドサービス等G Suite (Classroom, フォーム)
漁業情報サービスセンター衛星画像クラウド
の活用
教材の配布・回収等
生徒の学習状況の把握

資料等の共有
その他（ ）
本時の
ねらい

漁業情報（衛星画像）の活用方法を理解し、好漁場を推測することができる。

主な学習活動
(学習場面)

ICTの活用・留意点等

評価

導入

○前時の内容を
振り返る

個別

Classroomにアクセスし、
前時の内容について確認
する

指針2

クラウド

○本時の目標を
確認する

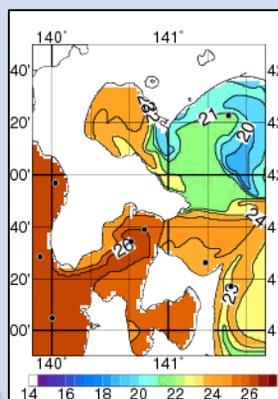
一斉

本時の目標について説明
する
・対象魚種を確認する

展開

○基本的な衛星
の情報につい
て理解する

一斉

漁業に利用される人工
衛星の概要等について
説明する

ICT機器

○衛星画像を提
示し、水温分
布を読み取る

個別

Classroom上にあるURL
から漁業情報サービス
センターの衛星画像を
ダウンロードし、必要
な情報を読み取る

指針1

クラウド

○潮境と海流を
推察する

個別

水温差の大きい所（等温線の間隔）
から潮境と海流を推察する

ここで評価

指針3

○漁場について
話し合う

協働

対象魚種の好漁場と判断した結果と
その理由をグループ内で話し合う
・Classroom上の共有シートに書き出す

クラウド

【思】衛星から必要な情報を読み取り、潮境と海流とともに、対象魚種の好漁場を主体的に推察することができる。

終末

○本時の
振り返り

個別

フォームで作成した振り返りシートに回答
(自動集計結果を教師が確認)

指針4

クラウド